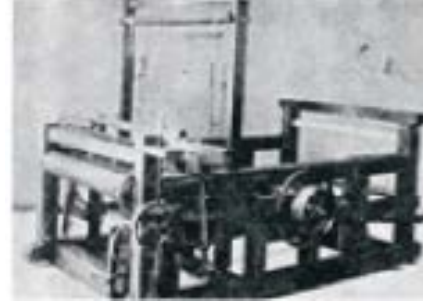


中小企業地域資源  
活用促進法に基づく



**ふるさと名物**  
Furusato Meibutsu

わが市町村の  
ふるさと名物は  
**これ!**



**山形県鶴岡市**  
が応援するふるさと名物

伝統と革新を紡ぐ  
「鶴岡シルク」と  
シルクタウン・プロジェクト

# ふるさと名物応援宣言

伝統と革新を紡ぐ「鶴岡シルク」とシルクタウン・プロジェクト

山形県鶴岡市  
平成28年2月26日

## 地域のプロフィール

### ◆気候・特色・歴史・文化

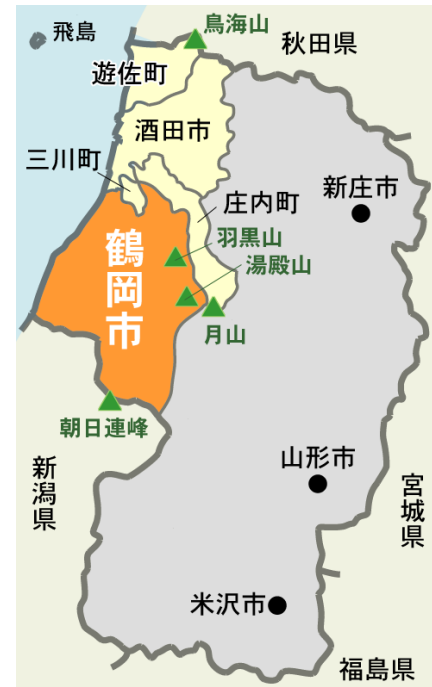
鶴岡市は山形県の西部に位置し、南部は新潟県に接しています。山岳・平野・海岸部と多様な自然環境を有し、面積は1,311km<sup>2</sup>と東北一の広さを誇ります。

かつては庄内藩酒井家の城下町であり、藩校「致道館」を創設し、教育に力を入れていました。

この向学の気風は、学問や芸術、産業活動を活発にし、人々のよりよい暮らしの実現に情熱を傾けた多くの先人を輩出してきました。

鶴岡出身の時代小説の大家、藤沢周平の作品に描かれる「海坂藩」は故郷・鶴岡をモデルにしたものと言われており、たびたび小説に登場します。

江戸から時代が大きく変化した明治の初期、「刀を鋏にかえた」庄内藩士約3千人による原生林の開墾から、鶴岡における絹の歴史が始まります。



# ふるさと名物(主な地域資源) 「鶴岡シルク」

## ◆鶴岡シルクについて

鶴岡市を含む庄内地域は、国内最北限の絹産地であり、最も新しい絹産地です。

また、養蚕にはじまり絹織物の製品化まで、一貫した工程が集約されている日本で唯一の地域でもあります。

明治初期、庄内藩の武士達が、「刀を鍬にかえて」原生林を開墾したことが、「鶴岡シルク」のはじまりです。



歴史と精神文化を表す「侍」発祥のストーリーや、「キビソ・プロジェクト」から生まれた製品の質の高さで注目を集めています。

歴史と伝統が育んだ文化と、革新的なものづくり技術、気鋭のデザインが融合し、「鶴岡シルク」が生産されています。

「食文化」、「出羽三山」とともに、鶴岡を代表するコンテンツとして出展したミラノ万博では、デザインや配色、質感などが高く評価され、購入したいという声が多数寄せられました。

# ふるさと名物(主な地域資源) 「鶴岡シルク」

## ◆背景



明治初期、庄内藩の武士達は戊辰戦争での敗戦後、「刀を鋤にかえて」原生林を開墾。

明治新政府の殖産興業政策に応じる形で、一大絹産業を興し、国の発展に寄与することで、汚名を晴らそうと考えました。

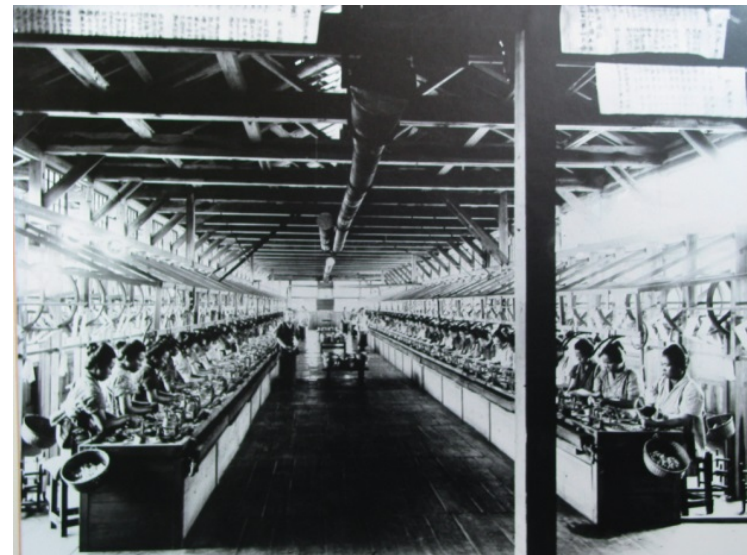
明治5年より、松ヶ岡(現在は国指定史跡)開墾、桑園の造成、桑苗の植付、養蚕の開始に次々と着手。明治10年までに大蚕室(だいさんしつ)10棟が建設されました。

明治35年、「綿の豊田、絹の斎藤」と、トヨタ創始者と並び称される鶴岡の斎藤外市が「斎外式力織機」を発明。この電動式の力織機は、瞬く間に日本の力織機の半数を占めるようになりました。

市内にはこの力織機を何百台も持つ織物の会社ができ、染色・縫製の学校なども備え、就業人口の半数が絹産業に従事するほどの、日本でも有数の一大産地となりました。

明治から昭和初期を支えた国内の絹産業が衰退する中、全工程を残す産地は鶴岡市を含む庄内地域のみとなっています。

地域に一貫製造工程が残る国内唯一の産地として、庄内の純国産絹は伝統と革新を紡いでいきます。



# 鶴岡市の取り組み「シルクタウン・プロジェクト」

## ◆「シルクタウン・プロジェクト」について

鶴岡市では平成21年から、本市の近代化の礎となった養蚕、絹織産業の伝統を保存・伝承するとともに、その伝統を活かして絹織産業の新たな可能性を啓き、地域を活性化することを目指して、「シルクタウン・プロジェクト」を開始しました。

平成24年度には新たな指針となる「鶴岡シルクタウン推進プラン」を策定。関係課が緊密に連携し、事業の推進を図っています。

養蚕・絹織の伝統を文化面と産業面で捉え直し、それぞれの観点から振興策を展開する方針のもと、各種の事業を推進しています。

## ◆ネットワークづくりと情報発信



平成14年度から20年度まで、隔年で「シルクサミット」を開催。全国の第一線で活躍する研究者やデザイナー、企業が、シルクに対して多面的にアプローチしました。27年11月には、「鶴岡シルクの世界発信」をテーマとして、鶴岡市でシンポジウムを開催しました。

また、「シルクタウンプロジェクト」は、JR東日本のフリーペーパーであるトランヴェールで特集や、報道番組から取材を受けるなど、紙面やテレビにおいても、全国に向けて発信されています。

その他、「シルクのまちづくり協議会」や「絹のみち広域連携プロジェクト」等にも参加し、広域連携を進めています。

# 鶴岡市の取り組み「シルクタウンプロジェクト」

## ◆「蚕の飼育体験」と「繭人」プロジェクト



幼稚園・保育園・小中学校及び福祉施設などに「蚕の飼育キット」を配布。平成27年度は、48の施設、約1,000名の幼児、児童、生徒が蚕飼育体験を行いました。養蚕指導普及員の方々から、蚕の飼育管理指導だけでなく、絹織の歴史や絹織の工程もあわせて紹介いただき、多くの子供たちや先生方に、蚕の飼育や鶴岡の絹の歴史に触れてもらう機会となっています。また、市民有志による「繭人」(まゆびと)も募集し、自宅での飼育体験も進めています。

## ◆シルクガールズコレクション

県立鶴岡中央高校の生徒が、自ら企画・運営し、純鶴岡産の絹素材布でのファッションショーを毎年開催し、好評を博しています。25年度からは飼育体験をしていただいている児童館の子供たちや高齢者施設、障害者施設の方々からもモデルとなっただき、年齢や障害などわけ隔てなくファッションを楽しんでもらおうとコラボ企画を実施。幅広い市民各層から鶴岡シルクに親んでもらう取組を進めています。



# 鶴岡市の取り組み「シルクタウンプロジェクト」

## ◆松ヶ岡開墾場の観光利用について

松ヶ岡開墾場は、明治初期の開墾当時の雰囲気をも今に伝える日本の開墾史上でも珍しい貴重な史跡であり、平成元年に国指定史跡に指定されています。



松ヶ岡開墾場は、広大な開墾地の中心地であり、史跡地内には、開墾本部として活用した「本陣」や、三階建ての「大蚕室」(だいさんしつ)5棟が現存しています。

周囲には、果樹を中心とした丘陵地が広がり、その風景と相まって、開墾から現在に至るまでの当地域の歴史を肌で感じることができます。

また、本陣や蚕室は、開墾を今に伝える行事や歴史展示、シルクガールズコレクションのファッションショーなどにも活用されています。



市では、この松ヶ岡開墾場が旧庄内藩士の開墾創業の精神を今に大切に受け継いでいること、また絹織産業の発祥の地域であることから、シルクタウンプロジェクトの一環として、松ヶ岡地域を主体とした各種ソフト事業を展開するとともに、歴史的風致維持向上計画の重点区域に位置づけて、史跡を保存・継承するための整備を行います。

# 鶴岡シルクを支えるプロジェクト

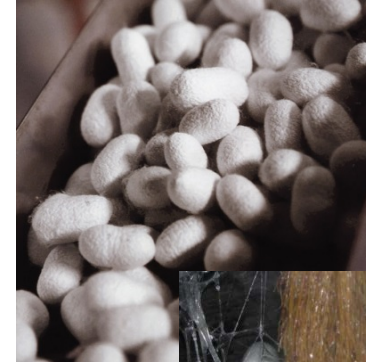
## ◆地域一貫工程を継続するために

鶴岡シルクの産業面については、全国で唯一残っている絹織の養蚕・製糸・精練・捺染(なっせん)・縫製の一貫生産工程の価値を活かしながら、地域のシルク産業を担う4企業が加盟する「鶴岡織物工業協同組合」が中心となり、取組を進めています。鶴岡市でも、各種展示会への出展支援や、新製品開発支援、企業間連携の促進などにより、地域の貴重な資源である一貫工程の維持を支援しています。

## ◆キビソ・プロジェクトについて

蚕が繭を作るときに最初に吐き出す糸「キビソ」の素材を生かした製品づくりが「キビソ・プロジェクト」です。

キビソ独特のゴワゴワした素材感と、鶴岡の風土・歴史を感じさせる風合いに、従来の絹にはない魅力を感じた国内の精鋭デザイナーたちによる斬新なデザインが融合し、鶴岡シルクをブランド化するための取組が行われています。現在は他産地と連携したコラボ商品の開発や海外展開にも着手しています。



※キビソとは？・・・製糸の際、繭から糸口を見つけるために繰りとった部分を乾燥させた副産物。不均一な太さで硬くごわごわしているため、製糸が難しく、織り機での織物には不向きとされてきました。世界で活躍してきた専門家のアドバイスと、地域企業の高い技術力により、加工に適した糸への開発に成功、製品化が実現しました。



# 市長からのメッセージ

鶴岡市には、先人のたゆまぬ努力により培われた知恵や工夫が息づいており、他に誇れる産業や伝統文化・生活文化、城下町としての歴史を背景とした人々の気風など、文化の薫り高いまちが形成されています。

地域が誇る教学の精神・風土が、この地域を我が国有数の絹産地に導く原動力となり、「鶴岡シルク」が誕生することとなりました。

鶴岡市にとってだけでなく、我が国にとっての貴重な絹産業の歴史遺産を後世に保存・伝承するとともに、ものづくりや革新を紡ぐ新たな取組を支援し、地域の魅力を発信していきます。



鶴岡市長 榎本 政規